

ハマダイコン（浜大根）は、読んで字のごとく、「浜に咲く大根の花」という意味です。本家の大根のような太い根は持ちませんが、花の形状は確かに大根そっくりです。しかし根は食用にもなるそうです。しかも花弁の縁が薄桃色に染まり、色味のある花に乏しい海岸風景に彩（いろどり）を添えています。

ハマダイコン *Raphanus sativus* var. *hortensis* f. *raphanistroides* は日本各地の海岸に普通に見られるアブラナ科の野草です。砂地を好み、時に大群落を形成します。こんな栄養便に乏しい砂地などやめて、ほかにもっと良さそうな場所はいくらでもありそうです。しかしハマダイコンは、進化の過程で海岸を選びんだのです。それは種子の拡散方法にあります。

ほとんどのアブラナ科の種子は水に沈みます。ところがハマダイコンの種子は「コルク質」の種皮に覆われて、水（海水）に浮きます。つまり、種子の拡散を波と海流に頼っているのです。その証拠に、ハマダイコンの群落は、荒天時の汀線に特徴的に見られます。当然種子は海水にも強いのでしょう。ほかの植物が嫌いそうな砂浜を選んだのは、種子の拡散に都合が良いというのが大きな理由だと思います。

（2025 年 5 月下旬／千葉県銚子市犬吠埼）

